

BABASAKI KENJI TIBETAN THANGKA

信州長谷寺縁起白助物語タンカ奉納 2016年11月

Contribute Thangka "SHIRASUKE, The Founder of SHINSHU HASEDERA"

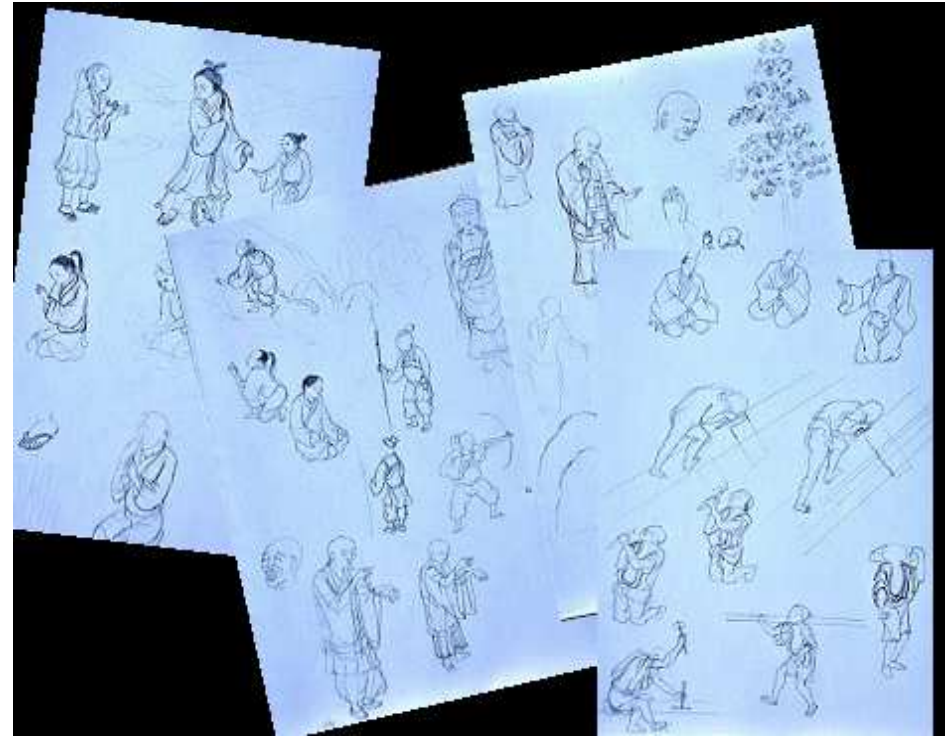


いきなり話は遡ります。ミステリー・ドラマで10数年前の事件現場から始まるようなものかもしれません。さて時効までに犯人を追い詰めることができるのでしょうか。ハッピーエンドになるのは分かっていますが、やはり犯人が捕まるまではハラハラドキドキ落ち着かない。宙吊りにされたようで、ここにサスペンスのサスペンスたる所以があります。

遡ること1年。2016年の11月にグル・リンポチェの一代記を長谷寺に奉納させていただいたのですが、その時に長谷寺の開祖シラスケの一代記をタンカに描いて奉納させていただくことを発願したのです。

ご住職から「白助物語」資料一式をお預かりし、佐世保に帰り紐解いてみました。まずはその歴史と物語の深淵なことに驚かされます。岡澤恭子さんの絵解きの口調でいえば「やあれやれ困ったわい、千年昔の人々はいったいどんな格好をしていたのやら、皆目見当がつかんわい。」儀軌にのっとった観音様なら簡単に描いてしまう馬場崎研二ですが、さすがに途方にくれてしまい、半年ほどは試行錯誤の連続で、全くはかどらなかつたと言っています。

BABASAKI KENJI TIBETAN THANGKA



数限りなく書き込んだデッサン

天井まで届く大キャンバスに向かい
細密な彩色を施す馬場崎研二

BABASAKI KENJI TIBETAN THANGKA



平成 29 年(2017 年)11 月 18 日、長谷観音様のご縁日に奉納が行われました。本堂での護摩法要の後、庫裏にてお披露目。天井から下がる電動バトンに吊るされた白助物語が姿をあらわすと、期せずして歓声があがりました。わざわざインドに送り軸奏したタンカはもちろんのこと、電動バトンもめったにお目にかかれるものではなかったからかもしれません。

左岡澤慶澄住職、右馬場崎研二

岡澤恭子さんの絵解きのバックにはチャーリー宮本さんがスワルマンダル(インド 48 弦琴)の演奏を奉納してくれました。(写真上)